

常設委員会報告

総務委員会報告 委員長 鈴木 太

平成28年度 総務委員会は、下記の9名にて構成されています。

- 委員長：鈴木 太(株東海環境エンジニア)
副委員長：加藤 信治(株松原工事事務所)
委員：西部 雅英(株ヨコタテック)
委員：広瀬 義純(株アサノ大成基礎エンジニアリング)
委員：真鍋 保幸(東海地質工学株)
委員：天木 亨(興亜開発株)
委員：田中 一浩(株フジヤマ)
委員：山本 貢司(東洋地研株)
委員：土屋 靖司(株富士和)

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)一般社団法人化設立準備に関すること
ロ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
・独占禁止法遵守講習会の開催
ハ)新入会員の入会促進運動
二)地質調査技士に関すること
・地質調査技士等、資格検定試験の実施
・地質調査技士受験対象者講習会の実施
・登録更新講習会の実施
・地質情報管理士資格検定試験
・その他地質調査技士に関すること
ホ)四支部協議会の実施
ヘ)会員相互の親睦会の実施
ト)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

●親睦ボーリング大会

平成28年5月20日 星ヶ丘ボウル
参加者 66名(18社)
優勝者

- 団体 青葉工業株
個人男子 東邦地水株 高井 一人
個人女子 中部土質試験協同組合 中村 あい子



地質調査技士受験対象講習会風景

●地質調査技士受験者対象講習会

平成28年6月24日 ウイルあいち
受講者 40名

●第51回地質調査技士資格検定試験

平成28年7月9日 愛知県青年会館

部門	受験者	合格者
現場調査	19	13
現場技術・管理	59	16
土壌・地下水汚染	3	2
応用地形判読士	6	3
地質情報管理士	20	6
計	107	40

●平成28年度コンプライアンス講習会

平成28年11月14日 名古屋ガーデンパレス
受講者 247名
講師
公正取引委員会事務総局 中部事務所
総務課 経済係長 松江 賢
社会保険労務士・心理カウンセラー 山本 道子

●親睦ゴルフ大会

平成28年11月4日 富士カントリー可児クラブ
参加者 16名(15社)
優勝者 富士開発株 吉田 憲司

●第33回地質調査技士登録更新講習会

平成28年12月2日 名古屋国際会議場
受講者 181名

●新春賀詞交換会・麻雀大会

平成29年1月14日 麻雀「琥珀」
参加者 32名(21社)
優勝者 (株)増田地質工業 山本 成貴

●四支部協議会

平成29年2月22日
中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

最後に、委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

平成28年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓(株大和地質)
- 副委員長：阿部 暢夫(富士開発株)
- 委員：中村 正和(株日さく)
- 委員：都築 孝之(日本物理探鉱株)
- 委員：佐藤 雅人(株テイビー)
- 委員：中山 宏史(株総合開発調査)
- 委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱株)
- 委員：鈴木 正之(株東日)
- 委員：中野強一郎(株中野地質)
- 委員：大出 彰宏(日特建設株)

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- ①協会の技術向上のための技術研修会・講習会の開催
 - ・現場見学会による研修会の開催(隔年実施)
 - ・技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
- ②当協会が地盤工学会と連携して進めている調査研究委員会への支援

以下に主な活動について報告します。

●ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会

開催日時：平成28年5月28日(土) (学科講習)

場 所：桜華会館

講 師：片山 浩明氏(東邦地下工機株)

参加者：55名

前回の講習会から5年経過しているため、多数の方が参加されました。

安全に対して具体的な説明が多く、非常に解りやすい内容で有意義な講習会でありました



写真-1 ボーリングマシン安全衛生特別講習会

●平成29年度 新春技術者懇談会

開催日時：平成29年1月27日(金)

会 場：ホテル名古屋ガーデンパレス

主 催：中部地質調査業協会

共 催：中部土質試験協同組合

演 題：「あらためて『断層』を考える」

講 師：(有)風水士 永田秀尚氏

参加者：46名

講演内容は、岩盤・土質地盤でも遭遇する断層や活断層についても一度見直してみようという趣旨で、最近の事例を含めた様々な断層が紹介され、工学的な対応や斜面災害との関連についての講演がなされました。そして「ノンテクトニック断層」という新しい概念で断層を総合的にとらえようとする考えにも触れられていました。

今回の講演は皆様の関心度の高いいろいろな断層を題材としたものであり、講演後の質疑も活発に行われました。



写真-2 新春技術者懇談会

講演後の懇親会も多数の方の参加により、和やかな雰囲気の中で開催となりましたが、そこでも永田講師を囲んで多くの質疑応答がなされました。



写真-3 講演後の懇親会

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



広報委員会報告

委員長 西岡 吉彦

平成28年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10名のメンバーで構成されています。

- 委員長：西岡 吉彦(川崎地質(株))
 - 副委員長：松浦 好樹(株ジーベック)
 - 委員：森 理(協和地研(株))
 - 委員：妹尾 俊美(株シマダ技術コンサルタント)
 - 委員：佐藤 安英(株中部ウェルポーリング)
 - 委員：後藤 邦夫(株テイコク)
 - 委員：富田 義裕(株東建ジオテック)
 - 委員：狩野 行宏(株中日本コンサルタント)
 - 委員：服部 剛明(服部エンジニア(株))
 - 委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
- (委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動方針は、平成28年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- (イ)発注者に対する広報活動
- (ロ)中部地方整備局との意見交換会の実施
- (ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- (ニ)全地連積算委員との連携
- (ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- (ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
- (ト)広報活動での「土と岩」の配布

以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会のご協力を頂き、7班編成で6月～7月に実施しました。

訪問先は、中部協会の広報委員会が愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人を担当し、愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会が各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・協会誌「土と岩」64号
- ・防災協定書写し
- ・全地連PR誌：日本ってどんな国
- ・「ステップアップ講習会」案内

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌64号は、「火山」をテーマに特集を組んだものです。2014年に御嶽山が噴火し、多くの犠牲者を出した火山災害は記憶に新しいところで、他にも口永良部島、桜島や箱根山等火山活動が活発化しています。全国的に火山活動期に入ったとの見方もあり、タイムリーな特集で、執筆は各分野の専門の方々をお願いし、読み応えのある内容となっています。また、同号には特別寄稿として「名古屋工業大学防災工学センターの活動」、最新の「濃尾平野の堆積環境に関する研究報告」や昨年開催された「技術フォーラム2015名古屋」の開催報告等盛りだくさんの内容を掲載しています。配布先では、協会誌の完成度の高さに多くの方が感心され、技術資料としても価値が高いとのお声を頂戴し、各所で各部署の皆様方にも回覧するとのお約束を頂きました。

同号には平成28年2月23日に国土交通省中部地方整備局と行った「平成27年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様相も報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連PR誌「日本ってどんな国」は、今年度は「ジオパーク」をテーマにしたもので、日本の自然の造形美の世界をご案内しています。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも拘わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「平成28年度中部地区に於ける地質調査業に関する意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度からできるだけ早期に開催できるよう取り組みました。今年度は、例年よりも4ヶ月早く、平成28年10月31日に桜華会館にて開催し、その様相は本誌で報告していますので、是非ともご覧ください。

●委員会の取り組み

広報委員会は、今後ますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。

技術委員会報告

委員長 法安 章二

平成28年度は、ミニフォーラムの企画・開催や学会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

今年度のメンバーは、以下の9名です。

委員長：法安 章二(玉野総合コンサルタント(株))
 副委員長：中平 啓二(株)ダイヤコンサルタント)
 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
 委員：片岡 泰(株)キンキ地質センター)
 委員：草野 善彦(株)岐阜ソイルコンサルタント)
 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
 委員：高橋 幸伸(東海ジオテック(株))
 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
 委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- (イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進
「中部ミニフォーラム2016」企画・開催(H28.10.21)
- (ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力
「地盤調査ボーリング作業見学会」の開催(H28.4.22)
- (ハ) 全地連が主催する講習会の開催支援
「ステップアップ講習会」(H28.9.26)
- (ニ) 地質調査関連講習会への講師派遣

●地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業・物理探査～室内土質試験見学会」に中部土質試験協同組合と共催の形で毎年実施しております。

技術委員会は、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリングツールについても各種展示しました。

参加者は84名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会会員各社からの参加は20社45名でした。



●中部ミニフォーラム2016

今年も名古屋国際会議場で開催し、64名と多くの方の参加を賜りました。

開催に当たっては、「技術の伝承」を念頭に、協会会員各社に在籍の、特に若手技術者の発表力・技術力向上を目指しております。

今年度は11名の多くの若手技術者の方が発表し、その後発表内容に対しての意見交換の場を設け、各セッションの終了時に座長が簡単な講評をまとめました。限られた時間の中で、経験豊富な技術者からのアドバイスや意見交換ができ、非常に有意義で密度の濃い知識の集積を計ることができました。

優秀論文発表者は論文及び発表審査の結果、下記の2名の方に決定しました。

- ・「堆積環境の違いが沖積粘性土の地盤工学的特性に及ぼす影響」清水亮太氏(中部土質試験協同組合)
- ・「バイオ浄化によるVOCs および油汚染土壌の修復技術の検討」浅野裕一氏(応用地質(株))

両名には、5月に開催の通常総会の場において表彰を行います。また、論文は本号「土と岩」及び、協会ホームページにも掲載してあります。



学会中部支部等の諸行事への共催、並びに後援等の協力については、以下の通りです。

●日本応用地質学会中部支部

- ・平成28年度 技術交流会(H28.10.21)

●地盤工学会中部支部

- ・第25回 調査・設計・施工技術報告会(H.28.6.24)
- ・第29回中部地盤工学シンポジウム(H28.8.3)

●その他

- ・地質リスクキーマンの活動(全地連)



防災委員会報告

委員長 武藤 英教

平成28年度のメンバーは以下の7名です。

- 委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
- 副委員長：澤田 哲郎(株)朝日土質設計コンサルタント)
- 委員：澤田 茂(株)興栄コンサルタント)
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
- 委員：黒田 了介(株)グランドリサーチ)
- 委員：齋 秀(株)東海建設コンサルタント)
- 委員：岡野 直次(株)ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

1. 中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
2. 「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として継続会議に出席参加
3. 中部土質試験協同組合と「災害時施設提供に関する覚書」の締結
4. 震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

●事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員58社、本店・支店・営業所を合わせて計95事業所が登録され、登録派遣人員数は468名となっています。

●「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」への参加

東日本大震災を踏まえ、中部圏の国、地方公共団体、学識経験者、経済団体、ライフライン関係機関等が幅広く連携し、南海トラフ巨大地震に対して広域的視点から一体となって取り組む協議会(構成員:117協議団体)が結成されており、ライフライン関係機関として防災委員が出席しています。詳細内容については中部地整のホームページをご覧ください。

(<http://www.cbr.mlit.go.jp/senryaku>)

●「災害時施設提供に関する覚書」の締結

大規模地震災害により協会の事務局機能が停止した場合に、災害協定に基づく支援を迅速かつ円滑に遂行す

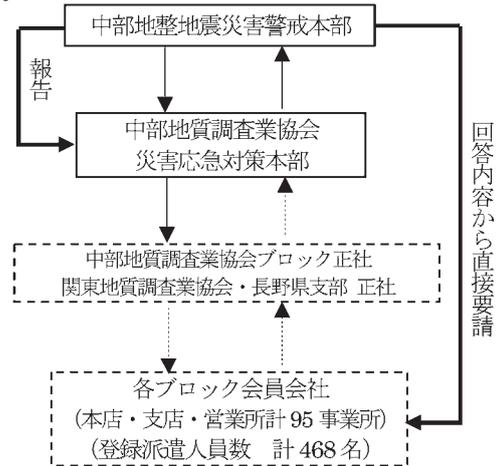


るため、復旧または移転までの期間中、応急対応できる施設を提供してもらうことを目的として、7月15日、中部土質試験協同組合と覚書を締結しました。

●「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練を行っています。9月21日に中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月28日に実施しました。今年度は施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録会員95社にPCメールで情報収集を行いました。

配下協会員に抜き打ち的に行ったにもかかわらず、回答率は80%(昨年は82%)となっており、比較的スムーズに地整側に報告できる体制が整っていることを確認しました。



以上が活動報告です。

中部地整と災害協定を締結して本年度は20年の節目に当たります。この間災害緊急時の要請に迅速に対応できるよう訓練を積み重ねてきました。

また、南海トラフ地震と言う巨大地震を想定して、災害対策本部の施設移転が可能となる体制作りも行いました。

会員におかれましては、要請時への連絡対応ができるよう引き続き社内防災体制の確立に努めていただきますようお願い申し上げます。

編集委員会報告

委員長 成瀬 文宏

平成28年度の編集委員会は、以下の10名で運営してきました。

委員長：成瀬 文宏(基礎地盤コンサルタンツ(株))
副委員長：井出 修(応用地質(株))
委員：片平 宏(明治コンサルタント(株))
委員：佐藤 威臣(国土防災技術(株))
委員：竹市 雅司(株東京ソイルリサーチ)
委員：山里 剛史(株タイム技術サービス)
委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
委員：川口 勝男(丸栄調査設計(株))
委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
委員：小田 秀昭(株建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」64号の発刊、配布先の検討、配布、65号の企画制作。
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新、改良(HPワーキング担当)(次頁にホームページワーキンググループの活動を別途掲載)。
- ③全地連「拡大編集委員会」への参画、アンケート対応。

●「土と岩」65号の編集について

平成28年度は3回の委員会と1回のメール審議を開催し、65号の企画、構成から外部執筆者の選定と原稿依頼、受領原稿の校閲、デザイン構成等を行い、発刊への準備を進めてきました。

●特集テーマと編集方針

今年度の初回委員会が熊本地震後、活断層がクローズアップされている最中の開催であったことから、65号の特集のメインテーマは「活断層」、表紙は益城町の右ずれ断層、と一瞬のうちに出席委員の全員のイメージが一致し、決定いたしました。

内容につきましては、当初はやはり熊本地震の原因となった「布田川・日奈久断層帯」についての見解をどなたかに執筆していただけないかと思いましたが、未だ学術調査の進行途中であったことから断念せざるを得ませんでした。しかしながら、活断層の第一人者として活躍されている先生方にご協力いただき、地元中部地区の活断層についての特徴と評価をはじめとして、活断層地震のメカニズム、活断層の調査方法、それに昨今注目を浴び、熊本地震でも確認されましたノンテクトニック断層まで多岐にわたる内容とすることができ、読者の皆様の知的好奇心をくすぐることができたものと自負しております。

●特別寄稿

一昨年から始めた中部圏の大学の研究施設紹介シリーズとして、今年は岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センターを取り上げ、センター長の沢田先生にご紹介していただきました。地盤・地質分野でもインフラマネジメントが重要な分野となってきていることから、皆様の今後の業務の一助、またはきっかけになればと期待したいと思っております。

●散文

昨年、伊勢志摩サミットが開催され、世界的に伊勢神宮が紹介されたことから、旬なサイトとしては是非とも取り上げたいと思い、第62回神宮式年遷宮を記念して建設された「せんぐう館」にお伺い申し上げたところご快諾をいただき、学芸員の深田先生にご紹介をいただきました。

●その他の記事等について

平成28年10月に開催した国土交通省中部地方整備局との意見交換会の内容を掲載致しました。現状の発注環境や業界の課題等について垣間見ていただけるものと思いますので、協会員のみならず、広く読者の皆様にご一読いただければと思います。

また、協会でも若手育成の一環として毎年開催しています中部ミニフォーラムでの優秀賞2編をご紹介します。ただくとともに、協会の活動状況のお知らせとして、常設委員会である総務、研修、広報、技術、防災、編集の各委員会報告と、ホームページワーキングの活動報告をまとめました。

末筆ながら、今回お忙しい中、特集論文のご執筆をいただきました。産業技術総合研究所の吾妻先生、名古屋大学の鷺谷先生、ノンテクトニック断層研究会の永田先生、ダイヤコンサルタント(株)の中平・斉藤のご両氏、および特別寄稿、散文をご執筆いただきました。沢田先生、深田先生には、改めて深く感謝申し上げる次第です。

また、本誌表紙の益城町の断層と裏表紙背面のノンテクトニック断層による亀裂の迫力のある写真は、それぞれ基礎地盤コンサルタンツ(株)の諸星氏と九州大学の辻先生にご提供いただきました。重ねてご両名に深く感謝申し上げます。

今後とも皆様に興味深く愛読される機関誌づくりを目指してまいりますので、よろしくお祈りいたします。

平成28年度のワーキングの構成

平成28年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、親委員会の編集委員会より成瀬編集委員長、井出編集副委員長が加わり、活動を行ってきました。なお、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上、連携強化の一環として、今年度より静岡支部からのメンバーも加入致しました。

- 委員：宮尾 浩一(応用地質(株))
- 委員：米田 英治(川崎地質(株))
- 委員：山本 幹登(東邦地水(株))
- 委員：棚橋 昌平(応用地質(株))
- 委員：津坂 喜彦(株アオイテック)
- 委員：長屋 浩輔(基礎地盤コンサルタンツ(株))
- 委員：谷村 直己(株ジーベック)

平成28年度の活動の概要

平成28年度のホームページワーキングは、4月から精力的に議論し、活動を行ってきました。平成27年度にいただいたホームページ利用者アンケートの整理・分析、各会員会社の情報の更新、各支部の活動状況報告等を行ってきました。アンケートでいただいたご意見、ご要望等については、分類・整理の上、編集委員会を通じて役員会に報告し、各委員会等の活動の参考とすべく展開させていただきました。地質等を身近に感じていただくことを目的とした“身近な地質見学スポット”等も昨年度に引き続き、精力的に情報の追加・更新を行いました。そのほかにも、ホームページの利便性の向上を図る活動を引き続き行ったほか、トップページへの写真の追加も行いました。

新たなリンク付け・バナーの追加

平成28年度には、利便性の向上のため、新たなリンク付け・バナーの追加を行いました。そのうち、TOPページには、CPD活動記録整理の利便性向上のため、ジオ・スクリーニングネットへリンクするバナーを追加したほか、全地連機関誌「地質と調査」の活用を図る目的で、「地質と調査」掲載ページへリンクするバナーの追加を行いました。



トピック的な活動① 静岡地域の地質情報の追加

現在、技術資料コーナーには「東海三県の地質と土木地質的特徴」が掲載されておりますが、以前より、静岡地域の情報も含めて欲しいというご要望をいただいております。そこで、このご要望に対応すべく、静岡支部のご協力をいただき、情報追加について検討を進めてきました。その結果として、静岡地域を追加する形で、このコーナーを更新する準備を進めております。準備が整い次第、更新致します。

トピック的な活動② 協会誌「土と岩」バックナンバー掲載

前回は行ったホームページ利用者アンケートでは、紙資料しか残っていない協会誌「土と岩」のバックナンバーについても、協会ホームページで閲覧できるようにして欲しい旨のご要望をいただいております。

そこで、平成28年度の活動では、2000年以降に発行されたものを対象に、ホームページでもご覧いただけるように致しました。



トピック的な活動③ Q&Aコーナーの“発展的改良”

アンケート結果によりますと、“Q&Aコーナーを利用している”という情報がある反面、“内容が古くなっている”等のご意見もいただいております。これを受けてホームページワーキングでは、対応について検討を重ねてまいりました。

検討では、単に内容を新しくするだけでなく、追加・検討のハードルをできるだけ下げ、追加・検討し易くすることなども検討してきました。その結果、(これまでのQ&Aの雰囲気は残しつつ) Q&Aの形から、いろいろなキーワードに簡単な解説をする形へと変更させていただくことと致しました。また、これを機会に

内容を増やすことと致しました。材料については、各委員が気になったものについて調べてみたもの(こと)を中心に集めてあります。

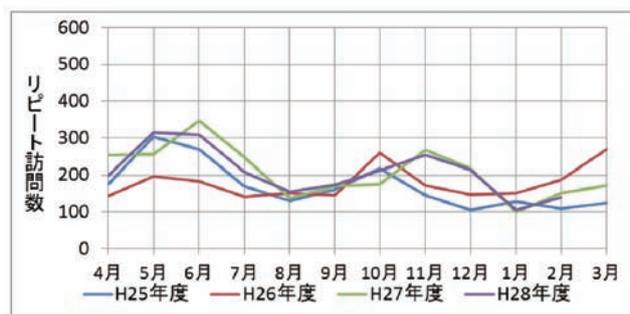
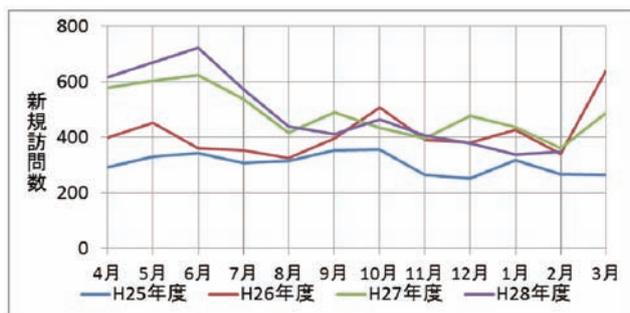
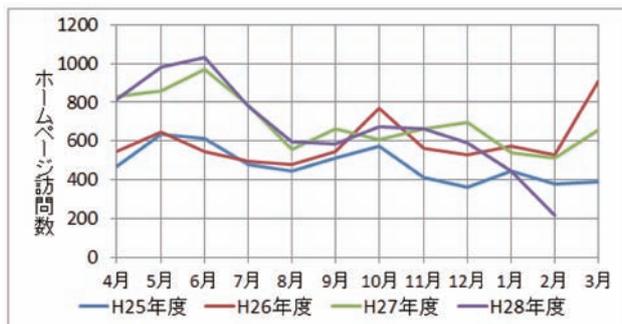
“改良”準備は整いましたので、今後、予算等も勘案しながら、掲載の仕方を考え、ホームページ上で参照できるように致します。

トピック的な活動④ 更新情報の連絡

平成28年度には、ホームページ利用促進の一環として、事務局の協力も得て、更新情報を会員の皆様に連絡するように致しました。また、これに伴い、会員の皆様には、更新情報を水平展開していただく“連絡窓口”の複数化にご協力いただきました。

協会ホームページ利用状況

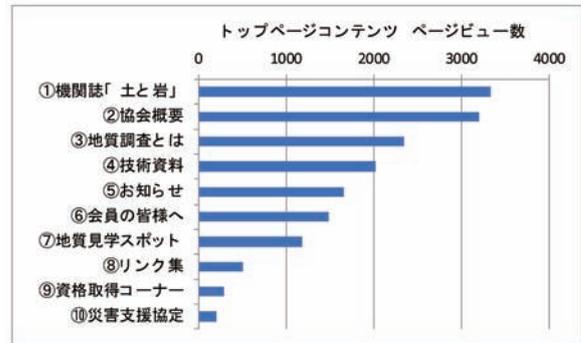
平成28年度(平成29年2月末現在)のホームページの利用状況は下図の通りです。ホームページ訪問数、新規訪問数は、4月～7月で幾分増加したものの、全体としては前年度(平成27年度)同様に推移しています。リピート訪問数についても、前年度同様に推移しています。



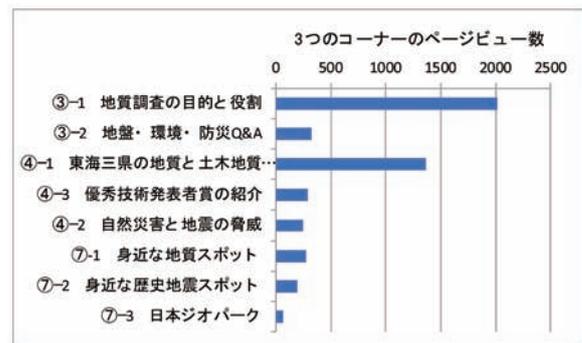
訪問者の多いコンテンツ

今回の活動報告を行うにあたり、平成28年(1月～12月)について、各コンテンツの利用状況を調べてみました。

その結果、トップページでは、多いものから順に、“機関誌「土と岩」”、“協会概要”、“地質調査とは”、“技術資料”、“お知らせ”となっていました(下図)。



これらのうち、“地質調査とは”、“技術資料”、“地質見学スポット”の3つのコーナーについて、ページビュー数を見てみると下図のようになります。“地質調査の目的と役割”、“東海三県の地質と土木地質的特徴”の利用が多い傾向となっていました。



平成29年度では、このような利用実態も参考にしながら、活動を行っていきたいと思っております。

ホームページ利用者アンケート

平成29年3月～4月に、昨年に引き続き、ホームページ利用の実態、利用者の皆様のご意見・要望等の把握等を目的に、アンケートを実施しています。この結果は、平成29年度のホームページワーキング活動において参考に致します。

ご利用・ご支援のお願い

平成29年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。皆様からの声、私たちの活動の支えとなっております。

今後とも、関係者一同、より良いホームページになるよう努力してまいりますので、引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。